

THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区
木更津東ロータリークラブ

2021-22 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111
●事務局 木更津市朝日 1 丁目 2-29 シグママンション朝日 B 棟 105 号 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2021-22 年度国際ロータリーテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
SERVE TO CHANGE LIVES

第 6 回例会 NO. 2527

2021 年 8 月 18 日

【倉島和広会員のペット】



娘: アクアちゃん (7 歳) パパ: バウ君 (8 歳)

■司会進行

有島敏夫 SAA



◆点鐘 12 時 30 分 渡邊慎司会長

◆出席 会員 41 名 ◆出席率 64.70%
出席 22 名 ◆前々回出席率 79.48%
欠席 19 名 ◆修正後出席率 87.17%

◆欠席者【敬称略】

石井文子・叶川博章・金見和子・倉島和広・
小林裕治・鈴木秀幸・鶴岡大治・中野麻美・
林田謙志・松岡邦佳・宮寺順子・渡辺元貴

◆メイクアップ

・7/7 ガバナー補佐会議 山田修平
・8/18 第 54 回インターアクト年次大会
叶川博章・小林裕治

ホームページ <https://kisarazueast-rc.jp>

木更津東ロータリークラブ

会 長 渡 邊 慎 司
幹 事 吉 田 和 義
編 集 大 岩 も え

国際ロータリー第 2790 地区

RI 会 長 シェカール・メータ
地区ガバナー 梶 原 等
ガバナー補佐 鈴 木 荘 一

コロナウイルス感染拡大防止の為に緊急事態宣言発令に伴い、リモートで2回目の例会を行いました。

【リモート会議会場】



【会議の様子】



■会長挨拶・報告

渡邊慎司会長



皆さんこんにちは、今日は2回目のリモート例会となります。本来ならばガバナー補佐の訪問に合わせてアワーの時間を使用しますが、リモートという事もありプログラムを変更して実施します。

緊急事態宣言が発令されてから2週間が経過しますが、未だに収束する兆しがありません。全国的に感染が広がり緊急事態宣言が7県追加され、蔓延防止措置も追加されました。また、期間についても9月12日まで延長となりました。今後の予定についてはアワーの担当委員会と調整していきたいと思っております。

また、ガバナー公式訪問については延期の申請をしていますが、変更日についての連絡が来

ていませので、分かり次第理事会にて変更の審議を進めていきたいと思っております。

木更津市においても累計感染者が17日時点で1167名となりました。日々の感染者数も20名を超える日が続いています。保健所も対応に苦慮しているのか、検査確定日から発表までに時間を要するようになりました。

データを見てみると、検査確定日で見ると感染者数は7月26日に20名を越してから、昨日まで20名を超えた日が13日にのびます。8月12日には32名と今までで最大の感染者数を出してしまいました。入院中やホテル療養などの感染者は151名となっています。年代別で見ると、20代が28.2%とダントツに多い状況です。30代と40代がそれぞれ16%程度という数値になっています。

ワクチンを2回接種した人でも感染する例が出てきており、接種後もマスクと消毒などの以前と変わらない対策が必要となります。

県内を見ても66862名が感染し、昨日も1304名の感染者がいました。木更津市は県内で15番目に多くなっています。県内の年代別でも20代が圧倒的に多く全体の25%を占めます。今までは県内感染者数が1万人を数えるまで、2・3ヵ月掛かっていたものが、7月では1ヵ月、8月に入り2週間を切るペースとなってきています。確実に感染力が増してきています。感染リスクが高い状態での日々が今後も続くと思われま。

私の周りでも感染者と一緒にPCR検査をした人なども出てきています。マスクと消毒をする事で大きく感染リスクを減らすことができます。3密と呼ばれるような状態に長くいないことが大切です。例会も食事をとらない形式で大きな会場を借りて実施することも可能ですが、少しでも感染リスクを減らすにはリモートでの例会がベターだと思います。

前回リモートで例会を実施して悪い点、良い点があったと思いますが、少しずつ変えていければと思います。移動時間が無くなった、着替える必要が無くなった、普段参加できない人も参加することができた。など、良い点もあったと思います。今回のアワーもリモートで実施する利点を生かしてパワーポイントを使用して実施したいと思います。しかし、皆さんの反応が感じづらいのがリモートの悪い点の一つなので、終わった後には疲れた顔でなく充実した顔が映っている事を願っています。

私も早く普段通りの例会を実施したいと願っておりますが、緊急事態宣言が解除されない場合もあると思います。リモートであっても例会を開催することによって、皆さんと時間を共有できることは素晴らしいことだと思います。また、普段通りの例会が実施できるまで感染せずにお会いできるのを楽しみにしております。



■幹事報告

吉田和義幹事



第2回理事会報告

【審議事項】

- ① 2021年7月度収支報告の件
→承認されました。
- ② 8月22日親睦事業「モルック大会」
延期について →承認されました。
- ③ 新会員推薦の件 →承認されました。

【協議事項】

ガバナー公式訪問について日程変更の可否を確認することといたしました。
後日ガバナー事務所及びガバナー補佐と打合せの結果、延期となりました。

【報告事項】

次回第3回理事会は、9月8日（水）第2週の例会後に変更いたします。

1.幹事報告

- 1) 2020-21年度「地区大会記念誌」が届いておりますので回覧いたします。
- 2) 梶原等ガバナーより季節の挨拶状が届いておりますので回覧いたします。
- 3) ガバナー事務所より「ガバナー事務所夏季休業のご案内」が届いておりますので回覧いたします。
- 4) 2021-22年度研修リーダー 宇佐見透様より「クラブ活動計画書」送付の御礼が届いておりますので回覧いたします。

2.他クラブからのお知らせ

- 1) 袖ヶ浦RC・上総より「クラブ活動計画書」が届いておりますので回覧いたします。
- 2) 袖ヶ浦RC・上総RCより「週報」が届いておりますので回覧いたします。
- 3) 富津シテイRC・富津中央RCより「例会変更のお知らせ」が届いておりますので回覧いたします。

3.その他のお知らせ

- 1) ㈱千葉日報より「ご挨拶」が届いておりますので回覧いたします。
- 2) 木更津市立図書館より「寄付金のお礼状」が届いておりますので回覧いたします。

4.回覧

- ・2010-21年度「地区大会記念誌」
- ・梶原等ガバナーより季節の挨拶状
- ・ガバナー事務所より「ガバナー事務所夏季休業のご案内」
- ・2021-22年度研修リーダー宇佐美透様より「クラブ活動計画書」送付の御礼
- ・㈱千葉日報より「ご挨拶」
- ・木更津市立図書館より「寄付金のお礼状」
- ・袖ヶ浦RC・上総RCより「クラブ活動計画書」
- ・袖ヶ浦RC・上総RCより「週報」
- ・富津シテイRC・富津中央RCより「例会変更のお知らせ」

～ロータリーについて知ろう～

第6回目

今日は第54回インターアクト年次大会が開催されます。今回の年次大会は千葉県立大原高等学校インターアクトクラブがホストクラブとして行います。「グローバルな視野で未来を創造しよう」～コロナ禍の今だからできること～と題して、リモートで開催されます。台湾とLIVEでつなぎ、オンライントリップ、オンライン交流を実施します。普段は台湾へ研修に行っていましたが、コロナの影響で昨年度は実施されませんでした。しかし、オンラインでつながることにより新たな発見があるかもしれません。高校生のうちに奉仕活動や海外の同年代と交流を持つことは良い経験になると思います。私たちも木更津総合高等学校インターアクト部と共に更なる交流を深めていきたいですね。



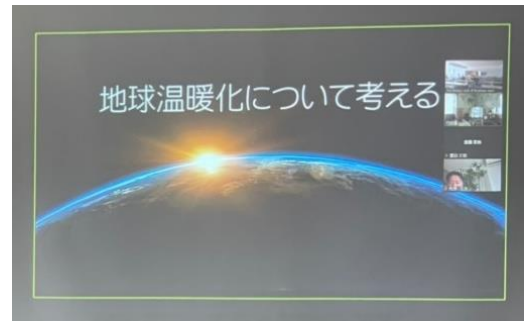
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



■例会アワー

◆会員卓話 渡邊慎司会長

【地球温暖化について考える】



地球温暖化の問題について知らない人はいないと思いますが、改めて確認したいと思います。全国地球温暖化防止活動推進センターによると、産業活動が活発になり、二酸化炭素、メタン、さらにはフロン類などの温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇し始めています。これが地球温暖化です。

では、温室効果ガスだけが地球温暖化の影響なのでしょうか。その他の考えられる影響は、太陽活動、宇宙線、地磁気、火山活動などです。しかし、その他の影響について日本政府やマスコミから話が出てきた記憶がありません。なぜ、温室効果ガスだけなのかについて、見ていきたいと思います。

皆さんは、国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）をご存知でしょうか。人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988年に国連環境計画（UNEP）と世界気象機関（WMO）により設立された組織です。

ここでは、各国の政府から推薦された科学者の参加のもと、地球温暖化に関する科学的・技術的・社会経済的な評価を行い、得られた知見を政策決定者をはじめ、広く一般に利用してもらうことを任務として、評価報告書を5～6年ごとに発表しています。先日、第6次評価報告書が承認・公表されたばかりです。3つの作業部会があり、科学的根拠、影響・対応・脆弱性、緩和策についての評価を行っています。

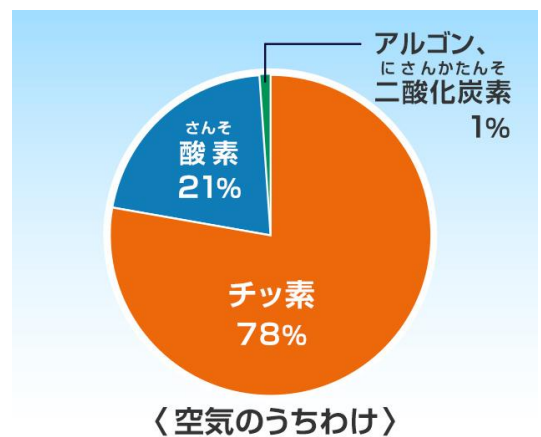
評価報告書を見てみると、第1次評価報告書では、「気温上昇を生じさせるだろう。人為起源の温室効果ガスは気候変化を生じさせる恐れがある。」としていたものが、第5次評価報告書では、「可能性が極めて高い（95%以上）。温暖化には疑う余地がない。20世紀半ば以降の温暖化の主要因は、人間の影響の可能性が極めて高い。」という評価を下しています。

ここで、温室効果ガスについて触れてみたいと思います。人間活動において排出された二酸化炭素、メタン、フロン、そして水蒸気が赤外線を吸収することにより、本来熱を宇宙空間に逃がす役目のある赤外線エネルギーが、大気中に溜まってしまい気温を上昇させてしまうというメカニズムです。しかし、この温室効果があることによって、地球は住みやすい環境を保っています。

現在問題となっているのは、この温室効果ガスが産業革命後急激に増加したことにより、赤外線を吸収するガスが多くなり、放出する赤外線が少なくなったためというのが、IPCCが述べている事です。

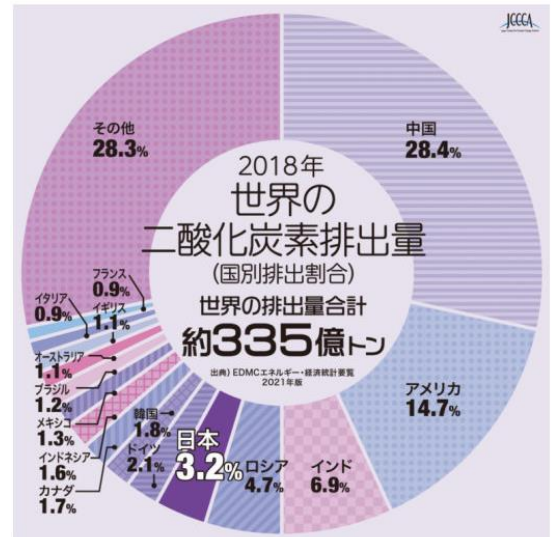
たしかに、排出量の増加に伴い地球の平均気温も上昇してきています。中には両者を同じグラフ上に合わせて表示する物もあります。しかしこの両者には相関関係はあっても、因果関係はないと言えます。因果関係について確実な証拠を見つけた研究者は1人もいません。温室効果ガスも場所により濃度が様々でどの様に影響しているのか、まだはっきりとしたことは見つかりません。

では、地球の温度を上げてしまう程の温室効果ガスは、果たしてどんなにいっぱい排出されているのでしょうか。大気中の割合について見てみましょう。大気中の割合を見ると、窒素78.08%、酸素20.95%、アルゴン0.93%、が主な成分です。温室効果ガスの中で一番多いのは二酸化炭素で、0.035%です。0.035%がどのくらいの割合か見るのに、1リットルのペットボトルを思い浮かべて下さい。1リットルのペットボトル中0.35ミリリットルです。1000g中の0.35gが二酸化炭素です。実は水蒸気は1～2%程度大気中に存在しています。



大気中ではどうなるのか見てみましょう。地球の半径が 6378 km、成層圏まで大体 50 km だとして、その大気中の二酸化炭素の割合を見てみたいと思います。球体の求め方により体積を求めたいと思います。 $4\pi r^3/3=V$ の公式で求めてみると、地球の体積が約 1 兆 378 億 km^3 、地上 50 km までの体積が 1 兆 500 億 km^3 とすると、大気の体積は 10500 億 - 10378 億 = 122.5 億 km^3 となります。地上 50 km の球体表面積は 5 億 1494 万 km^2 となるので、その付近に二酸化炭素を集めると、8.3m 程度の厚さになります。高校生講座では、0.035% が 0.04% になったらとても大きな問題だと述べています。本当にそんな微妙なバランスの上で地球は存在しているのでしょうか。

しかし、二酸化炭素濃度は上昇しています。250ppm であったのが現在では 400ppm を超えるレベルになっています。この二酸化炭素濃度を調べるために日本では観測衛星を打ち上げました。「いぶき」と「いぶき 2 号」です。対流圏にある二酸化炭素の濃度を測定することができます。「いぶき 2 号」になりカバーできる範囲も大きくなりました。いぶき 2 号の映像を見ると地球上の多くの地域で 400ppm 付近であることがわかります。ppm の単位ですが 100 万分の 1 を表しています。次に温室効果ガスの世界の排出量を見てみたいと思います。1 位が中国 28.4%、2 位がアメリカ 14.7%、3 位がインド 6.9% です。日本は 3.2% で 5 番目に多くなっています。次に国民 1 人当たりの排出量を見てみると、1 位がアメリカ 15.1 t、2 位が韓国 11.7 t、3 位がロシア 11.0t、日本は 4 位で 8.5t です。国全体の排出量は中国が一番ですが、14 億人いる中国は 1 人あたりでは 6.8t と日本よりも少なくなります。



パリ協定という言葉もよく聞く言葉だと思います。京都議定書に続き温室効果ガス排出削減目標を定めた会議です。

京都議定書では先進国のみの参加でしたが、パリ協定では参加国に途上国も含めたことにより、排出量の 86% をカバーするに至っています。パリ協定でもキーパーソンはアメリカと中国でした。温室効果ガス削減に対して途上国から多くの反対意見が出たのは不思議ではありません。もちろん中国も削減目標を高くすると国内産業の発展に影響があるかもしれないからです。

しかし、結果として各国が独自の目標を掲げ、参加国が批准したことにより協定は発行しました。各国の削減目標は様々ですが、多くの国で 2050 年にはカーボンニュートラルを目指すとしています。

アメリカでもバイデン政権になり削減目標に向けて大きく動き出しています。一時は脱退したアメリカでしたが約 3 か月後にはパリ協定に復帰しました。今では、クリーン政策に 100 兆円規模の予算を付けると言っています。また、テスラなどの電気自動車も性能が向上し、自動車各社は EV への転換を急激に進めています。

世界が二酸化炭素削減に向けて大きく動き出しています。それは地球温暖化防止への挑戦であり、削減することが温暖化を止める唯一の方法だからです。しかし、本当に唯一の方法なのでしょうか。もしかしたら他にも要因が多くあるかもしれません。その様な議論は日本では多く聞かれませんが、メディアも取り上げませんし、政治家も疑問を抱くほど賢い人はいないようです。

アメリカでは肯定派と懐疑派は拮抗しています。おおざっぱに分けると民主党が肯定派、共和党が懐疑派です。もちろんメディアも保守系とリベラル系では取り上げる話題も違います。トランプ大統領がパリ協定から脱退したのも、温室効果ガス削減について疑問を持っていたからです。

問題は温室効果ガス削減だけでは温暖化を止めることができない場合、どうやって対応していくかだという事です。お金を削減対策に使って、温暖化にたいする対応する予算を削っていったら、気候変動が大きく進むと対応しきれないかもしれません。地球には人間にはまだ分からないことが多く存在しています。1 つの情報からのみ結論を出さずに、他の情報も多く検証することが大切だと思います。

2050 年には気候も安定し、世界には平和が広がっていると良いとも思います。

◆点鐘 13時10分 渡邊慎司会長

木更津東ロータリークラブ事務局メールアドレス eastkisarazu-rc@nifty.com